

四門会

第23号



聖マリアンナ医科大学
耳鼻咽喉科学教室同門会

目次

巻頭言	肥塚 泉
会長あいさつ	岩武博也
中島博昭先生の追悼文	
ブーちゃん先生を偲びて 思い出の数々	竹山 勇
追悼 中島 博昭先生	スミス馨子
追悼 中島 博昭先生	南 定
中島博昭先輩を偲ぶ	釦持 睦
医局長あいさつ	春日井滋
新入医局員あいさつ	望月文博
医局報告	医局構成
	外来担当表
	関連病院連絡表
専門外来紹介	
めまい外来	三上公志
頭頸部腫瘍外来	赤澤吉弘
聴覚外来	谷口雄一郎
喉頭・音声・嚥下外来	春日井滋
副鼻腔・アレルギー外来	齋藤善光
関連病院だより	
聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院	岡田智幸
川崎市立多摩病院	中村 学
NHO 横浜医療センター	佐々木祐幸
OB 通信	星川智英
	服部康介
	俵道 淳
	高橋佳孝
第 16 回四門会ゴルフコンペのご報告	
第 19 回四門会 写真	
第 18 回四門会理事会議事録	
会則および編集後記	

巻頭言 「2015年、2016年」

肥塚 泉

2015年、医局では悲しい出来事があった。長年にわたって、私ども耳鼻咽喉科教室に貢献していただいた中島博昭先生が逝去されたのである。中島博昭先生は1年上の先輩であった。あの体格と人なつっこいキャラで、後輩の僕たちを含めて、大学の中で中島博昭先生を知らない人は誰一人いなかった。私が入学した当時はまだ体育館がなく、中島博昭先生が所属していた柔道部と、私が所属していたバドミントン部の練習を近所の高校（百合丘高校？生田高校？）で一緒にやっていたこともあったように記憶している。中島博昭先生、長い間本当にありがとうございました。



さて、この巻頭言を書いているのは2016年の1月下旬である。今年医局は、明るいニュースで始まった。来年度は久々に多くの新人たちが入局してくれるのである。まさに「ビッグバン」初年である。これまで、着実に「高齢化」が進んでいた医局の平均年齢が一気に低下しようである。産休・育休で休職していた藤田聡子君と明石愛美君も復職することになっており、忘れかけていた華やいだ雰囲気、医局が再び包まれようである。今現在も、初期研修医が7人も耳鼻咽喉科をローテーション中である（1年目：1名、2年目：6名）。彼らの存在で医局のムードが一変した。彼らが病棟や外来できびきびと働く姿を見ていると、彼らを立派な医師に育て上げようという機運が高まり、彼ら一人一人を熱心に指導する光景が随所で見られるようになった。ほんの数年前までの医局では当たり前の状態に徐々に戻り、若い先生たちがいると、こんなにも医局は活気づくのだということを再確認する年度となった。そして今現在ローテーション中の彼らの中から、多くの人たちが入局してくれることになった。彼らを熱心に指導してくれた医局員たちには心より感謝している。同門会の先生方、医局の先生方の医局へのさらなるご協力をお願いして、巻頭言とさせていただきます。

会長あいさつ

岩武博也

四門会の皆様方におかれましては、益々ご清祥のこととお喜び申し上げます。皆様には日頃より、四門会発展の為に格別のご高配を賜り、誠に有難く心より厚く御礼を申し上げます。



昨年、ご報告いたしました平成28年度よりもう1期(3年)会長を仰せつかる事になりました。これまで会員の皆様のご協力のおかげで何とか努め上げてまいりましたが、これからの3年間で新たな試みや企画を取り入れて四門会の活動を盛り上げて次の世代にバトンタッチして行ければと思っておりますので引き続きご協力をお願い申し上げます。

まずは以前よりの課題でありましたが今年度より倉田久美先生とスミス馨子先生の女性理事を2名お迎えする事になりました。また、理事の定年制も導入される事となりこれからは女性の意見や若い世代の意見を取り入れて行きたいと考えております。

昨年の四門会総会は平成27年11月29日に3年振りに菅生キャンパスの教育棟で開催いたしました。今回は横浜市立大学耳鼻咽喉科学教室教授の折館伸彦先生に『ヒト乳頭腫ウイルス関連中咽頭癌』という御講演をお願いし大変有意義な話を聞くことができました。懇親会は飛鳥を貸し切って我々マリアンナ医局員にとってのソウルフードである焼売、水餃子、担々麺を堪能する事が出来大変好評でした。今年の総会は平成28年12月4日に新宿の京王プラザホテルで開催予定ですので皆様ふるってご参加下さい。毎年総会が師走の日曜日でなかなか都合がつかないのご意見もありましたので今回、初めての試みとして5月に名古屋で開催される日本耳鼻咽喉科学会総会に合わせて親睦会を企画いたしました。名古屋在住で四門会副会長の服部先生が企画をしてくださっておりますので日耳鼻にご参加の先生方は是非ともご参加下さいますようお願い申し上げます。

今年はさらに教室開講45周年記念パーティーを7月2日土曜日にホテルモリノで開催される事が決定いたしました。我々の教室の歴史を振り返る良い機会だと思いますのでこちらも是非ともご参加下さい。普段お忙しくてなかなか四門会総会に出席できない先生方も多いとは思いますが、今年はこの様に盛りだくさんの企画をしておりますのでどれか一つでもご参加していただき会員相互の親睦を深めていただければと考えております。

前号に掲載されておりました様に新入医局員を少しでも増やすように現在医局を挙げて取

り組んでいます。教室の発展にはまずは教室員が増え育て上げて行く事が必要不可欠であります。四門会といたしましてもこの活動に少しでも協力出来るよう物心両面でバックアップして行く事が決定いたしましたので何卒ご理解をお願い申し上げます。

最後になりましたが、会員の皆様の今後一層のご健勝とご活躍を心からお祈り申し上げますと同時に、四門会のさらなる発展に向けてご支援ならびにご協力をお願い申し上げます。

ブーちゃん先生を偲びて 思い出の数々

名誉教授 竹山 勇

ブーちゃん（このネーミングは古野君だったか私か忘れました）こと中島博昭君の訃報のお知らせを受け深い哀しみに打たれました。

彼とは柔道部の学生で私が部長だった間柄で親しくしており、彼の練習を時々見に行き内股の切れの鋭さに感心しました。当時、体重 120 kg位でしたが「気は優しく力持ち」の好青年でした。医師になって外来の廊下で子供達が彼の大きなお腹を撫でて喜んでおりました。千葉で東医体大会があった時に準優勝し、その打ち上げを近くの居酒屋で行い、部員は 10 名前後は居たと思いますが、店を貸し切り呑み放題、食べ放題で喜びに浸りながらお開きになり、支払いで私の持ち合わせは 7 万一寸しかなかったので古野君に 1 万円借りて会計を済ませた次第でした。この翌年、聖マリアンナが主管校になり、見事優勝を果たした時、彼の活躍が目にとまりました。この時を記念し「柔道部の歌」(5 曲) を作り、今でもコンパの時などに合唱しています。彼は柔道のみならずスポーツ万能で院内の対抗野球大会で満塁ホームランを打った時の姿も目に浮かびます。彼は医師として臨床においても研究でも熱心でして、彼の学位論文は立派な良い仕事だったと思います。ある日、教室員 5~6 名と拙宅に遊びに来た時のこと、家内の手料理と「越の寒梅」でワイワイ楽しく盛り上がり、最後に「新潟こしひかり（新米）」の炊き立てのご飯がお釜ごと出てきましたが、せっかくの新米なのに、皆、満腹で誰も「もう食べれません」と言ったとき、彼が「僕が頂きます」と手を伸ばし釜ごと持ち上げて食べ始め、見事完食して仕舞いましたのに一同驚きと同時に感嘆しました。その後、「フー」と言って鯨の如く横になった一幕がありました。



彼には個人的にも助けてもらった思い出があります。私の父の晩年（95 歳）のことですが、寒い越後の冬を過ごすのが大変であろうと思い、父本人も来たいという希望がありました。12 月になり彼と清水弘之君と 3 人で上越線に（新幹線の完成前）乗り、2 人で父を車椅子に乗せたまま、軽々と担ぎ上げ、階段を昇り降りしてくれました。おかげで翌年 4 月中旬の桜を観るまで最後の親孝行をさせて頂きました。今でも感謝しております。彼との思い出はまだありますが、字数オーバーになり筆を擱きます。

ブーちゃん、長い間本当に有難う。安らかにお休み下さい。往時を偲び心からご冥福をお祈りいたします。

教え子の 先立つことの 哀しみは 深まりゆきぬ 日の経つにつれ 合掌

追悼 中島 博昭先生

スミス馨子

中島先生は私より1学年上で入学していました。学生の際は旧図書館の地下にあった喫茶店カノンに行くと先生がコーヒーを飲みながら本を読んでいた会うことが多く（ということは私もよく行っていたことになるにですが）、柔道部の練習前のランニングでは急な坂道を大きな体で一生懸命に走っていく姿をグラウンドから見ることもしばしばありました。なぜか柔道部のランニングはセッタはいていたような気がします。私たちが学生の時期にアメリカンフットボール部ができ、部員が足りないためラグビー部と柔道部、アメフト部で合同のチームを作り試合に出ることがしばしばあり、中島先生もほかの柔道部の部員たちとともに大きな体でラインでの好プレーをしていました。

また知っている方は多くないのですが学生時代に中島先生がダイエットをしたことがあります。なぜ知っているかというとその時期に私も一緒に栄養科の指導の下で1,200Kcalのダイエットをしていたからです。3か月で中島先生の体重が80Kgとスリムになっていた時期もあったのですがその後・・・。

最終的にやや不思議ですが同期に国家試験に合格。私は一般外科に進もうか思っていた時に中島先生が「耳鼻科でも手術ができるし一緒に来ないか。」と誘われたのがきっかけで研修医として耳鼻咽喉科に入局しました。そのことがなければ、耳鼻科には入局していなかったかもしれません。

中島先生は気が優しく、患者さん思いの先生で今でも覚えているのは研修医の時3か月単位で入院・外来と勉強していた時に、16歳の上咽頭癌の女の子の主治医を交互にしていた時があり、中島先生が入院担当時の深夜にお亡くなりになった時もわざわざ私にも電話をくれたこともあります。私にとって中島博昭先生は何となく気が合う兄のような存在で、四門会でお会いするときなどもよく声をかけてくれていました。本当に優しく中島先生の笑顔をこの文章を書きながら思い出しています。ブー先生本当にありがとうございました。

心を込めてお祈り申し上げます。

追悼 中島 博昭先生

南 定

中島博昭先生と初めてお会いしたのは、聖マリアンナ医科大学に入学し、クラブ活動を何にするか迷っていた時でした。

私が高校時代に柔道部だった事もあり、体育館にあった柔道部の道場に見学に行き、最初に目に飛び込んで来たのが中島先生でした。当時、中島先生は130kg超で、大学の柔道部は凄い体格の人が居るなどという印象でした。他にも故古野先生等、相当なメンバーが揃っていました。

その中でも中島先生は、その体格を活かしマリアンナの貴重なポイントゲッターで、私が柔道部の主将として参加した東医体では、中島先生のお陰で団体優勝をする事も出来ました。当時は辛い厳しい練習でしたが今となっては楽しい思い出です。

その後、柔道部の顧問の竹山先生からのお誘いもあり、耳鼻咽喉科医局に入局する事となり、再び中島先生にお世話になりました。

竹山主任教授時代、全国規模の学会を3回主催しましたが、中島先生はそこでも持ち前の人当たりの良さと誠実さで、渡来先生と共に活躍していた事を今でも思い出します。特に会長招宴の時など、体格からは想像も付かない物腰の柔らかさと社交性で、各大学教授との交流を見事こなしておられました。

また、中島先生の医局長時代は、竹山主任教授と医局員、また地域の開業医の先生方とのパイ役としてご尽力なさってました。

しかし、その後糖尿病を発症しご苦労なさっておられたみたいで、体重も90kgを割り、同門会に杖を突きながらいらした姿を見て心配しておりました。

そして、あまりにも早い訃報に驚いています。

中島先生、大変お世話になり有り難うございました。

ご冥福をお祈り申し上げます。



中島博昭先輩を偲ぶ

11 回生 鈿持睦

中島先輩と初めてお会いしたのは、私が大学に入り柔道部に入部することになった 1981 年の春です。場所は体育館の第 3 アリーナにある柔道場でした。

当時の柔道部先輩方の体型は大柄であり、平均体重は 90 kg を超えておりましたが、その中でも中島先輩は一際体格が良く、柔道も強かったので柔道未経験者の私にとっては恐怖ともいえる衝撃的な出会いでした。

私が入部した時は、先輩は 5 年生、BSL でお忙しかつたので練習とクラブのコンパ以外の接点はほとんどありませんでした。私が医師となり耳鼻科へ入局した時期には、先輩は杏林大学生理学へ大学院生として国内留学中でしたが、時々本院 7 東病棟の当直をされていました。先輩の当直の時は研修医も当直する事になっており、よく私を指名していただきました。私の救命センターでの外来診察を常に後ろで確認しては丁寧な口調で指導していただきました。

仕事をご一緒した東横病院時代は、お互い独身でしたので週 3 回は仕事後に耳鼻科基礎と展望と称して宴会をしておりました。先輩の体型は私の 2 倍を超えており、食事の量、お酒の量も全て倍でした。そのため、注文した料理は次から次へと皿だけとなり、お酒も同様に注文が間に合わないので、先輩の注文は常に 2 杯ずつオーダーしていました。

先輩は多趣味で、様々な方面に詳しく、子供のように常に好奇心を持たれている人でしたので仕事以外にもいろいろと教えていただきました。先輩に練習場へ連れて行ってもらったことがきっかけでゴルフをはじめました。初ラウンドもご一緒し、その後もよくラウンドに誘っていただきました。また、東横病院で釣りを企画して、はじめてのカサゴ釣りを経験させていただきました。餌の付け方から釣った魚の上げ方、針のはずし方まで手に取って教えていただいたことを覚えています。

先輩が体調を崩され西部病院で入退院を繰り返していた時は、ちょうど私が西部病院に勤務していたので、そのたびにお見舞いさせていただきました。

先輩はいつも自分の事より私の事を心配してくださり、いろいろと私の愚痴を聞いていただきました。

とても大きな先輩でしたが、優しく繊細で後輩のことを常に気にかけていました。

本当にお世話になりました。

心よりご冥福をお祈りします。



医局長就任のあいさつ

春日井 滋

平成 27 年度より医局長に就任いたしました春日井滋と申します。平成 13 年に耳鼻咽喉科へ入局いたしました。肥塚教授をはじめ、多くの先生方よりご指導いただき、現在は腫瘍班の一員として頑張っております。



医局長になるにあたり、「シゲノミクス」と題して 3 つの目標を掲げました。すぐに浮かぶと思いますがまさにその通りで「臨床・研究・教育」の 3 つです。臨床に関しては病院側からすると売り上げになります。昨年度および今年度上半期と手術件数増加などに伴い売り上げは伸びて、病院側からも高く評価していただいています。もちろん売り上げは重要ですが指導医が若手医師の指導をしっかり行うことがもっと大切だと考えています。今年度より月 1 回の総合医局会で肥塚教授をはじめ、上級指導医の先生方に交代制でそれぞれの分野で講義をしていただくことにしました。研究では論文数です。論文誌を開いても聖マリアンナの名前を見る機会が少なく寂しいと OB の先生から言われたことがあります。私自身、渡辺昭司先生から何かあると「論文書いたか!」と言われて、なるべく顔を合わせない様にコソコソした記憶もあります。医局員が少なく、臨床業務に追われる日々ですが、大学人として業績を残すのも大事なことだと考えます。目標としてこの 2 年間に最低で本院 4 本、西部 1 本、多摩 1 本の論文提出を掲げました。最後に教育ですが、おもに新入医局員獲得と学生教育です。耳鼻科の評判は良く、多くの研修医や 6 年生（希望の科を 1 ヶ月）が来てくれています。しかし雰囲気がいくら良くても興味がないと入局まではしてくれません。耳鼻咽喉科の面白さや、やりがいをいかに伝えるかが大切だと思います。

まだまだ若輩の身でありますので、これからも四門会の先生をはじめ、諸先輩方のご指導ご鞭撻を賜りながら、より良い医局づくりを目指していきたいと考えておりますので、今後ともよろしくお願い申し上げます。

新入医局員あいさつ

望月文博

神奈川県浅野高校出身し、平成 24 年に埼玉医科大学を卒業いたしました望月文博と申します。

東京慈恵会医科大学付属柏病院で初期研修を行わせて頂きました。耳鼻咽喉科医であった祖父、父の背中を見ていたこともあり、幼いころから耳鼻咽喉科医を目指しており、東京慈恵会医科大学耳鼻咽喉科教室へ入局させて頂きました。



入局後は、慈恵医大柏病院を 6 か月、本院を 6 か月勤務後、聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科学教室に異動させて頂きました。

研修医の時より、めまいに関する診断・治療に大変興味があり、肥塚教授をはじめ、めまい診療の最先端である聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科学教室で勉強させて頂き、大変うれしく思っております。

現在、めまい診療をはじめ、その他の急性期疾患や手術やなど様々なことを勉強させて頂いております。諸先生方に熱く優しいご指導を頂き、充実した後期研修医生活を過ごさせて頂いております。

まだまだ未熟で諸先生方にはご迷惑をおかけすることも多々あるかと思いますが、日々成長するよう精進いたしますので、今後ともご指導のほどよろしく願いいたします。

医局構成

平成 28 年 1 月 1 日現在

名誉教授	竹山 勇
客員教授	大橋 徹・加藤 功
教 授	肥塚 泉
准 教 授	岡田智幸・谷口雄一郎
講 師	佐々木祐幸・宮本康裕
助 教	春日井 滋 (医局長) 赤澤吉弘・斎藤善光・深澤雅彦 (国内留学中) 藤田聡子・田中泰彦・中村 学・三上公志・矢野裕之
任期付助教	明石愛美・井戸光次朗・大戸弘人・加藤雄仁
大学院生	阿久津征利
非常勤講師	芋川英紀・岩武博也・大草方子・越智健太郎・小宅大輔 北島明美・木下裕継・工藤典代・釵持 睦・佐藤成樹・新谷敏晴 武田憲昭・中村 正・日比野 浩・堀井 新
登 録 医	及川貴生・高橋 姿
研 究 員	犬飼賢也・加藤弓子・山田善一
診療技術員	北林圭子・久保田恵子・久保田成美
医局秘書	秋山恵子
教授秘書	鈴木 愛
関連病院	麻生総合病院、稲城市立病院、川崎市立多摩病院、癌研有明病院、共立蒲原総合病院、京浜総合病院、左近山診療所、島田総合病院、国立病院機構横浜医療センター、総合高津中央病院、ソレイユ川崎、秦野赤十字病院、横浜甞生病院、横浜市西部病院、横浜総合病院

(50 音順敬称略)

耳鼻咽喉科外来担当表

午	初診	月 肥塚 春日井	火 宮本	水 三上	木 斉藤	谷口	土 赤澤
	再来	大戸 望月	斉藤 望月	加藤 大戸	谷口 阿久津	加藤 大戸	春日井 斉藤
前	専門		頭頸部 腫瘍	喉頭 音声	喉頭 音声		
			赤澤 三上	赤澤 春日井	岩武(1,3)		

午	専門			鼻・副鼻腔 アレルギー	聴覚	めまい
				宮本 斉藤	谷口 宮本 越智(1,3) 木下 朝野(2,4,5)	肥塚 三上 加藤 望月
後					予約外来	予約外来
					阿久津	阿久津
	めまい検査	大戸	加藤			

出張病院および外勤病院

病院名	赴任医師	電話	fax
西部病院	岡田智幸 田中泰彦 井戸光次朗	045-366-1111	045-366-1190
多摩病院	中村 学 藤田聡子	044-933-8111	044-930-5181
国立病院機構 横浜医療センター	佐々木祐幸	045-851-2621	045-851-3902
横浜総合病院	矢野裕之	045-902-0001	045-903-3098
癌研有明病院	新橋 渉	03-3520-0111	03-3570-0343
麻生総合病院	外勤医師	044-987-2522	044-988-0878
高津中央病院	外勤医師	044-822-6121	044-822-7995
稲城市立病院	外勤医師	042-377-0931	042-379-1310
共立蒲原総合病院	外勤医師	0545-81-2211	0545-81-2208
京浜総合病院	外勤医師	044-777-3251	044-777-7319
左近山診療所	外勤医師	045-352-4184	045-352-4183
ソレイユ川崎	外勤医師	044-959-3003	044-954-5581
横浜甞生病院	外勤医師	045-301-0533	045-303-5736

専門外来紹介

《めまい外来》 金曜 PM

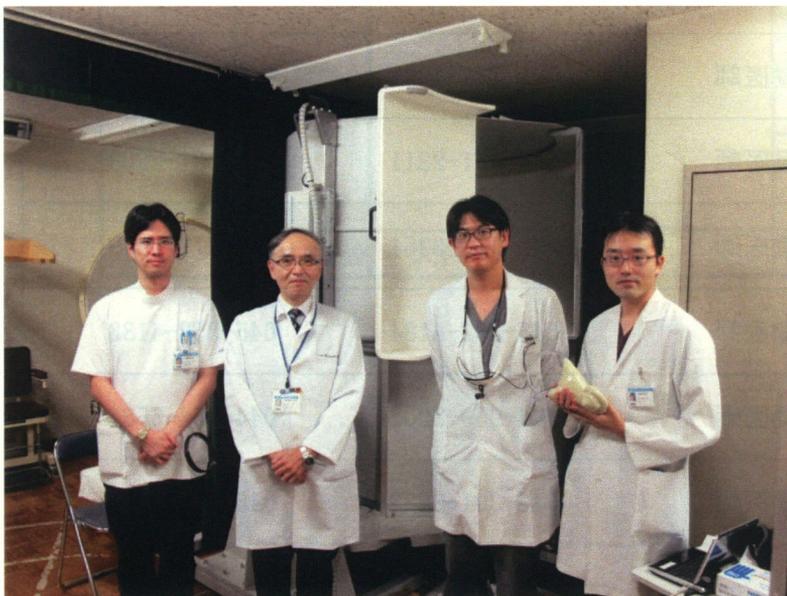
担当医：肥塚 泉、三上公志、加藤雄仁、望月文博

2年ぶりに川崎市立多摩病院から大学に戻り、同じく2年ぶりにめまい外来を担当している三上です。今年はめまい外来の時間帯が変更され、今まで午前の外来であったものが、午後2時からの外来となっております。ご紹介いただいております諸先生方には、ご迷惑をおかけしております。外来時間を変更した理由の一つとして、検査待ち時間が長くなってしまいました。予定検査としても1時間待つてしまうこともあり、当日追加で行った場合は1時間以上時間がかかっておりました。めまい外来にはご紹介いただくことも多く、午前中の一般外来と合わさるとまさに検査渋滞の状況で、今年から変更することにより、おかげさまで検査待ちを軽減させることが出来ております。

今年は私を含めて担当医の変更と1名の増員となりました。大学院にいる阿久津先生もめまい外来のサポートとしており、非常に活気づいております。めまい検査に関しても、以前より行っている回転椅子によるEVAR、OVARやカロリックテストをはじめ、VEMP、vHITを行うことによって、耳性めまいの障害部位評価を行っております。

最近のめまいに関連しての出来事としては、めまい相談医の更新が近づき、めまい平衡医学会からお知らせが来ました。更新に必要な書類として、更新までの5年間にめまい平衡に参加した証明が必要とのことで、今回の異動に伴い以前の参加票を処分していたため、非常にあわててしまいました。皆様はこのようなことはないと思われませんが、注意していただければ幸いです。

今後も、肥塚教授指導の下、より良いめまい診療ができるよう努力してまいりますのでよろしくお願いたします。(三上公志)



《頭頸部腫瘍外来》 火曜 AM

担当医：赤澤吉弘、三上公志

頭頸部腫瘍外来は火曜日の午前中に行っています。平成 26 年度末までは赤澤(平成 10 年卒)と深澤(平成 15 年卒)が担当し、平成 27 年度は赤澤と三上(平成 16 年卒)で担当しています。

今年度の頭頸部腫瘍外来の最も大きなニュースは、ついに念願の NBI が導入されることになったことです(他大学に比べてだいぶ遅くなりましたが、、、)。現在、最も精度の高いスコープの Olympus ENF-VH と細径の ENF-V3 を購入してもらいました。NBI により表在癌の観察ができるようになったことも重要ですが、何しろ白色光の画質がきれいです。大きな液晶画面でハイビジョン画質を見るだけでも診断精度が格段に上がったと感じます。慣れとは恐ろしいもので、元々あった電子スコープの画像では全く病気が見えなくなった気さえします。NBI の導入は表在癌や乳頭腫の診断治療に大きく貢献しています。

腫瘍班(喉頭班も含む)の平成 26 年度の手術件数は 168 件でした。今年度も難易度の高い癌手術については癌研有明病院の新橋(平成 13 年卒)に手術をお手伝いしてもらっています。平成 27 年度はさらに手術件数は増加傾向にあり、マンパワーがあれば手術日をもう一コマ増やせそうですので、何とか新入医局員を入局させたいところです。

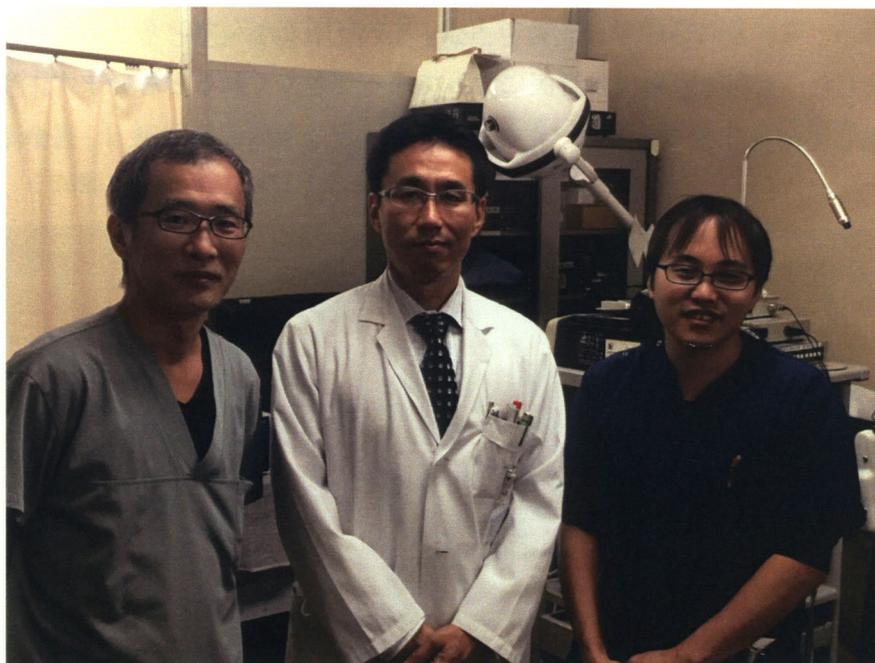
最後に昨年まで腫瘍チームにいた深澤が、平成 27 年 10 月から国立がんセンター中央病院で研修することになりました。立派な頭頸部外科医になって帰ってきてくれると思います。今後さらなる充実を目指して頑張りますので、ご指導の程よろしく願いいたします。(赤澤吉弘)



《聴覚外来》 木曜 PM

担当医：谷口雄一郎、宮本康裕、阿久津征利、越智健太郎、木下裕継、釵持睦

現在、聴覚外来は谷口雄一郎、宮本康裕、阿久津征利、越智健太郎(非常勤)、木下裕継(非常勤)、釵持睦(非常勤)の6名で診療を行っており、慢性中耳炎、中耳真珠腫などの手術症例から小児の遺伝性難聴まで幅広く診療しております。手術件数は紹介患者の増加に伴い徐々に増えており、今後は中耳真珠腫、癒着性中耳炎といった難治性中耳炎に対する外科的治療をさらに推進していきたいと考えております。術式としては外耳道後壁保存型鼓室形成術を基本とし、内視鏡を積極的に併用した approach を行っていくことで手術成績も向上しております。さらに内視鏡を用いた新しい手術法を積極的に取り入れ、内視鏡下でのアブミ骨手術をはじめ、外リンパ瘻、耳小骨奇形、小児先天性真珠腫などに対し経外耳道的内視鏡下耳科手術 (TEES) を行っています。また今後は臨床研究として難治性中耳炎に対する鼻腔粘膜細胞シートを用いた再生医療 (現在倫理委員会申請中) を開始していく予定であります。今後も、患者様により良い医療が提供できるよう努力していく所存でありますので、何卒より一層のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。(谷口雄一郎)



《喉頭・音声・嚥下外来》 水曜 AM

担当医：赤澤吉弘、春日井滋

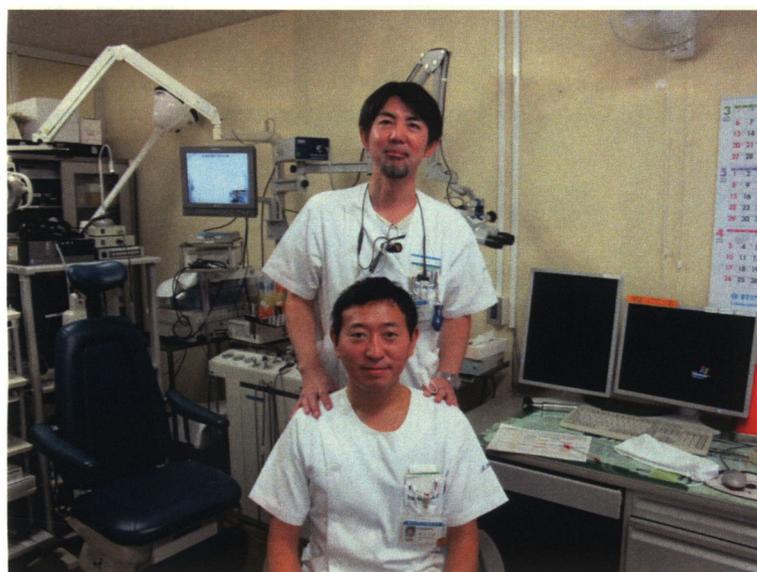
専門外来は、毎週水曜日午前に赤澤先生と私の2名と非常勤として岩武先生に第1、3木曜日午前に来ていただいて行っています。

平成26年度の喉頭分野における手術実績は顕微鏡下喉頭微細手術(LMS)44件、ELPS(endoscopic laryngo-pharyngeal surgery)3件、プロボックス挿入1件、音声機能改善手術(甲状軟骨I型+披裂軟骨内転術)2件でした。LMSの件数は増加傾向にありますが、その中には喉頭乳頭腫の残存・再発のため同一の患者に何度か施行されたものも含まれています。喉頭乳頭腫に対する治療の難しさを改めて実感しております。

嚥下に関しては、平成27年10月に昨年とほぼ同様な形式で「実践嚥下内視鏡検査」を講師として神奈川県嚥下研究会で講演しました。そのような機会を与えていただいているので、嚥下障害に対してもっと取り組み、学会等でも発表していこうと思います。

音声に関しては、LMSや音声機能改善手術前後でGRBASスケールやMPT・MFRを評価しています。来年度はもしかしたら2-3人新入医局員を獲得できそうな雰囲気(淡い期待ですが・・・)があるので、その時は後継者の育成もしっかり行っていきます。

最後に今後は後期研修医(医師3-6年目)を募集するにあたって、様々な手術などのノルマが課せられています。喉頭分野では音声機能改善手術や嚥下機能改善手術、誤嚥防止術の合計で後期研修医1名あたり4年間のうちに5件の経験が必要となっています。つまり後期研修医が増えればその分手術件数も必要です。是非とも適応のありそうな患者様がいましたら、ご紹介いただけたら幸いです。(春日井 滋)



《副鼻腔・アレルギー外来》木曜 PM

担当医：宮本康裕、齋藤善光

副鼻腔アレルギー外来は2015年4月より宮本康裕、齋藤善光の2名体制で行っております。外来は水曜日の14～17時の予定ですが、多数の予約患者様がいらっしゃる状況で17時過ぎまで外来診療を継続しており、患者様、外来スタッフには大変ご迷惑をおかけしております。また、紹介患者様には待ち時間等でご迷惑をおかけしており、紹介医の先生方にも大変申し訳なく思っております。この場をお借りしてお詫び申し上げます。

現在、スギ花粉に対するアレルギー性鼻炎に対しては舌下免疫療法を行っており、2016度からはダニに対する舌下免疫療法も順次行っていく予定です。また、外来手術療法としては高周波凝固装置による下鼻甲介手術も適時施行しております。

2014年度の手術室での手術件数は、鼻中隔矯正術：20件、下鼻甲介手術：15件、内視鏡下鼻副鼻腔手術（慢性副鼻腔炎／鼻腔腫瘍等含む）：45件を行いました。内視鏡下鼻副鼻腔手術ではDraf type II、III等の前頭洞手術も行っております。また、上顎洞腫瘍に対しては生理的機能温存を目的に、可能な限りEMMM（endoscopic modified medial maxillectomy）による手術を施行し、良好な治療成績が得られております。

2015年度に入り、紹介患者様のおかげもあり、手術件数は徐々に増加傾向（鼻中隔矯正術：45件、下鼻甲介手術：30件、後鼻神経切断術：2件、内視鏡下鼻副鼻腔手術：70件（2015/4-2016/1月））となっておりますが、まだまだ症例数が不足している状況です。近隣の先生方から信頼してご紹介が頂ける様、今年度も宮本を中心に患者様に優れた医療を提供できるよう日々努力していきたいと思っております。今後共より一層のご指導・ご鞭撻の程よろしくお願いいたします。（齋藤善光）



関連病院便り《横浜市西部病院》

部長 岡田 智 幸

副部長 田中 泰 彦

任期付助教 井戸 光 次 朗

ここ毎年の年度末には、医局卒業される先生たちとの哀しい別れと新入局員のいない慢性人的資源不足のつらい新年度が予測されておりましたが、1月4日仕事始めの日、久々の朗報が轟きました。

それは、西部病院では、我が耳鼻咽喉科ばかりではなく、他科の先生もご存知でありました。具体的な人数までは、ご存じないようでしたが。

今の言葉で「来年の耳鼻科がヤバイ、実に4名以上の新入局員がいる。」と、もたらされたようです（実際には、6名）。

写真（左）は、斎藤善光先生（左）と井戸光次朗先生（左から二番目）の歓送迎会（横浜橋「浜茂鮎」にて）の一コマです（田中泰彦（右）、私岡田（右から一番目））が、臨床研修医2年目の稲垣太郎先生（写真中央）も一緒に肩を組んでくれ、西部病院耳鼻咽喉科の強い結束を示しているものであります。

稲垣太郎先生は、4月と5月に西部病院の耳鼻咽喉科研修をされ、その真摯な研修態度には、私岡田の両眼に閃光が走るようでありました。今回、稲垣太郎先生と共に同級生である小野瀬好英先生（西部病院耳鼻咽喉科研修はなしですが、西部病院の朝夕の各科有志のガレージミーティングで、交流。西部忘年会「彩香新館」にも参加してくれました。）も新入局員の一員となってくれるそうで、喜ばしい限りです。

西部病院では、井戸光次朗先生が6月に結婚（写真右）され、本年度早々から、おめでたいことが、目白押しでした。来年度も楽しくそして益々発展の年度に西部病院にしたいと思っております。



関連病院便り《川崎市立多摩病院》

主任医長：中村 学

耳鼻咽喉科の診療責任者として診療を行っております。平成 27 年 10 月 1 日から深澤雅彦医師の移動に伴って、常勤医 1 人体制となっております。入院に関しましては今まで通り受け入れを行っております。手術に関しましては大学より応援医師を派遣して頂き 2 人体制と同様の quality を維持しております。また、12 月からは育休中でありました藤田聡子医師が復帰し、2 人体制となる予定です。

当院の病床数は 376 床の中規模病院で地域医療支援病院の役割を担っております。また、登戸駅より直結しており、立地と病院理念から近隣の診療所や病院から患者様をご紹介頂くことも多く、地域医療に貢献できるように心掛け、診療にあたっておりますのでどうぞよろしくお願い申し上げます。

勤務体制および外来は下記の通りです。

	月	火	水	木	金	土
午前	外来	外来	外来	手術	外来	外来
午後	検査	外来・検査 (予約制)	手術	手術	外来 (予約制)	

関連病院便り《NHO 横浜医療センター》

部長：佐々木 祐幸

外来日は月～金の午前 8 時 30 分～11 時 30 分で 1 日平均 20 人～40 人程度の受診者数です。毎週金曜日（手術日）だけ予約外の新患・再来を制限しております。入院数は昨年度の平均が約 2 人で変わらず、年間の手術件数は 70 件で前年とほぼ同様です。当地に来てから初めて、年間を通じすべての手術日を最低 1 件の手術で埋めることができたのは嬉しいです。ご紹介頂いた近隣の先生方にも感謝です。嚥下内視鏡検査の件数は昨年と比べ思ったほど伸びず、ホッとしています。医療事務（MA）の樋口は引き続き当科担当でがんばっております。

当地に出向してから 6 回目の冬を迎えております。富士山は天気さえ良ければ医局の窓からバッチリ見えます。昨年ここで報告した国立病院機構の「脱」特定独立行政法人が H27 年 4 月から施行されましたが、未だに「独立行政法人国立病院機構 横浜医療センター」ですし、職員の身分は「非公務員」であるはずですが「見なし公務員」である点は変わらず、自分を含めた職員は未だに厚生労働局第 2 共済組合保険証を使用しています。10 月から給与明細の「長期掛金」→「厚生年金」に変わったので、いよいよキターなどと考えていましたが、単に被用者年金制度一元化に伴う変更だそうです。一体何が変わったのか、詳しい方がいたら是非教えて下さい。

H28 年 2 月末の病院機能評価受審、3 月末の電カルアップデート（富士通のまま最新システムに移行）を控え、机上の書類がゴチャゴチャしてきました。どちらも無事終わることを望みます。

OB 通信



こんにちは、10期生の星川です。

20年近く前に一度この紙面でご挨拶させていただきましたが、今回初めて目にされる方の方が多いのではないかと思います。

私は父が58歳で急逝した影響で、大学院を卒業後しばらくして住まいと同じ横浜市港北区で開業しました。

父親、祖父、二人の叔父が内科と整形で開業していたので、地元の区の医師会と耳鼻科の会にはすぐにうちとける事ができました。

転機は開業してから4年後、何の仕事も無いからと言われ、ほとんど知り合いのいない市耳鼻咽喉科医会の救急委員会で副委員長を押し付けられた事でした。

違和感を感じながらも委員会に出席し続けた2年後、委員長が辞任され自動的に私が委員長に繰り

上げられてしまいました。更に知らない間に県地方部会救急委員会の委員長にもされている有り様（この時は県の方は何とか回避しましたが、結局数年後に引き受けられ事になります）。

当時この救急委員会は今の様なフランクな雰囲気は一切なく、真面目な先生からは辛辣な意見が噴出、不遜な輩は話し合ってもどうにもならないとの捨て台詞が出る有り様で、針のむしろに座らされると感じるほど厭でたまりませんでした。

それでも当時保土ヶ谷の委員として出席していた沖久先生、今は横浜の副会長で当時は市大の医局長だった河合先生、市耳鼻科会長だった大石先生や高畑先生、今では毎年数回プライベートに旅行をする様な仲になる人達と出会えたこと、また当時の地方部会会長太田先生と率直な話ができる様になった事は人生を有意義に過ごすための財産となりました。

H17年に当時横浜の会長で現地方部会副会長沖久先生から横浜の副会長に指名され、その6年後には会長を引き継いで欲しいと依頼がきました。

勤務医時代には公的な仕事には背をそむけ、一生懸命頑張ったとは言えない無い過去を恥を忍んでカミングアウトしつつ1年半固辞しましたが、結局H23年市耳鼻咽喉科医会の会長に就任し3期5年目を務めています。

横浜市耳鼻咽喉科医会は会員数300人を超え、地方部会の半分弱を占める大所帯です。任期を終えるまで、何とか化けの皮が剥がれない様に取り繕う毎日を過ごしています。

OB 通信

服部康介

平成7年度入局の服部です。今回は私の住む町、鳴海をご紹介します。その歴史は日本武尊の詠まれた歌に「奈留美」と出てくるほどあの物です。昭和2年に鳴海小学校付近で貝塚が発掘されていることから、有史以前より人の住む土地であったことがわかります。鳴海は江戸時代に整備された東海道五十三次の四十番目に当たる宿場町でしたが、それ以前の室町から江戸時代にかけての鎌倉街道の道筋でもありました。今でも旧東海道沿いに古い建物や寺が数多くあります。また城下町によく見られるクランク状に道が曲がった鉤の手が残されており、歴史好きの私にはたまらない魅力ある町です。

鳴海には西暦686年に創建された成海神社があります。ここは日本武尊を祭った神社ですが、新羅の僧侶が熱田社（現在の熱田神宮）から草薙剣を盗み出して新羅に持ち出そうとして死罪となった草薙剣盗難事件があった年に、日本武尊に縁のある地に建てたとされている十の神社のうちの一つのことです。鳴海のすぐ隣の大高には氷上姉子神社（ひかみあねこ神社）という所があります。ここが実は尊の妃である宮簀媛（ミヤズヒメ）の住む城のあった所でした。尊は東征の帰りに鳴海から船に乗り、宮簀媛の元へ帰ったと伝えられています。尊はしばらくここに滞在していましたが、伊吹山に荒ぶる神がいると聞いて宮簀媛に草薙剣を預けたまま退治に向かいます。そして尊は伊吹山で病に罹り、伊勢国で亡くなってしまいます。残された宮簀媛は熱田に社地を定め、草薙剣を奉斎鎮守したのが熱田神宮の始まりとされています。

また鳴海には室町時代に足利義満の配下であった安原宗範によって築城された鳴海城がありました。この城は戦国時代に謀略によって織田家と今川家で奪い合われた城で、桶狭間の戦い以降は佐久間信盛の居城でした。余談ですが織田家と今川家の間で謀略の渦中に置かれた山口氏のご子孫が私の診療所のある名古屋市南区で病院を経営しておられ、南区医師会の先輩として色々とお力添えを頂いております。この城は1590年に廃城となり現在は城跡公園となっていますが、今でもその周辺は急勾配の坂や土塁、空堀の後が残っています。桶狭間の合戦当時、この鳴海城を牽制すべく信長は3つの砦を周囲に築きます。そのうちの一つ、善照寺砦は桶狭間の合戦の日に熱田神宮で勝利祈願をした信長の部隊が次に足を止めた所と聞いています。ここは現在砦公園として残っており、我が家から徒歩2分の所にあります。私の子供たちの格好の遊び場となっています。小高い丘のような地形の上であり、ここの展望檣に上るとまさに桶狭間が一望できます。信長一行はこの地から今川軍の動向を見守っていたことでしょう。私の先祖は江戸の頃から曾祖父の代までこの鳴海で造船業を営んでおり、祖父が医師になり廃

業するまで続いていたそうです。桶狭間の戦いの直前に松平元康が大高城に兵糧入れをして武名を揚げたことが有名ですが、その際弥富にいた私の先祖も今川に呼应して船で鳴海近辺まで押し寄せ、今川義元が討たれた後はそのまま鳴海に居ついてしまったと父に聞かせてもらったことがあります。確証のない話ですが子供心にわくわくして聞いていたのを思い出します。

名古屋は太平洋戦争当時空襲に遭っていますが、鳴海はその難を逃れているので人がすれ違いうのもやっと思えるような細い道や江戸時代の地形がそのまま多く残っています。サングラスをかけた博識タレントが古い町をブラブラ歩く番組が好きな方ならきっと楽しめると思います。最後に見どころをもう一つ。我が家から徒歩3分程度のところに、すり鉢状のスタンド席がある自動車教習所があります。ここは元々鳴海球場という野球場で、日本初のプロ野球の試合が行われたところです。1931年と1934年には日米野球が行われ、ルー・ゲーリック、ベーブ・ルースがプレイしていったそうです。1958年に閉鎖され、翌年から名鉄自動車学校が開校されました。

つらつらとすぐに思いついた鳴海の見どころを書いてみましたが、他にも船着き場の跡や、室町時代から使われていたと思われる井戸の跡などがあります。本当に某タレントの番組で取り上げてくれないかなあ、などと思っている次第です。



(鳴海町家)



(鉤の手)



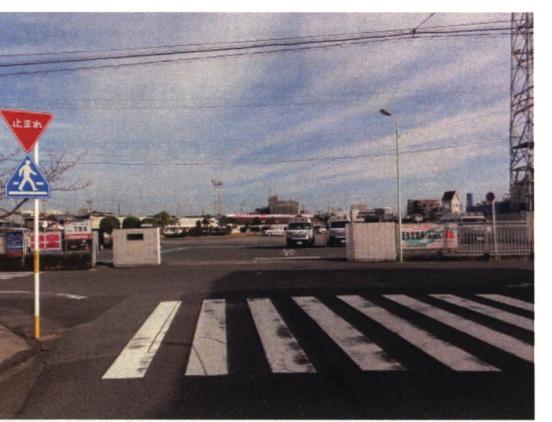
(瑞泉寺総門)



(成海神社)



(岩公園から桶狭間を臨む)



(スタンド席のある自動車学校)

OB 通信 近況報告

俵道 淳

小田急線沿線の高座渋谷に開業し1年9か月が経ちました。馴染みのない土地でしたが、2年近くも働けばこの地域にも溶け込んできました。スーパーで高座豚（ブランド豚）をよく見かけていたので高座渋谷にもきっと豚がいるんだろうと想像していましたが、まだ豚には1度も遭遇していません。

この地区は大和医師会に属し、医師会には木下先生と同期の信清先生が所属されており、いろいろとアドバイス頂き大変心強くスタートできました。開業開始は無謀にも3月上旬の花粉症で1番忙しい時期と重なり、慣れない中でのんやわんやのスタートとなりましたが、現在は2シーズン目でペースがわかり、何とか落ち着いて働いています。当たり前のことですが開業してからは採血・点滴など全てを自分でやらなくてはならず、勤務医時はなんと恵まれた環境で仕事していたんだと今更ながら気付きました。

開業すると外部との交流が極端に減り、毎日一人で診療行っているとストレスが溜まってきますが、4歳の息子（鉄ちゃん予備軍）と一緒に遊ぶことがいいストレス解消法となっています。先日漸く、趣味の山登り（トレッキング）に運動と気分転換も兼ねて箱根にある金時山に登ってきました。初心者レベルの山（スッタフ曰く、小学校の遠足で行ったらしい）ですが晴天で頂上からは見事な富士山が見ることができ、いい気分転換になりました。2日後(3日後?)の筋肉痛が激しく、日頃の運動不足を痛感し、開業医も子育ても体力勝負と分かりトレーニングしなければと決意した今日この頃です。

全くとりとめのない近況報告となってしまいましたがお容赦ください。

最後に、大学在職時、耳鼻咽喉科医局、関連病院でご指導して頂いた先生方には、いつも心から感謝しております。

これからも肥塚教授の御活躍と耳鼻咽喉科医局の益々の発展を心から祈っております。

OB 通信～南栗橋より～

高橋 佳孝

ご無沙汰しております。実家がある埼玉県加須市のとなりにあります旧栗橋町（現在は市町村合併により久喜市となりました）というのどかな田園地域で開業し今年で6年目を迎えました。開業初年度に東日本大震災があり栗橋地区は関東地方では千葉県浦安市に次ぐ規模の液状化現象が起こりクリニック周辺でも多くの建物が被害をうけました。幸いクリニックへの被害は最小限で済みましたがまだまだ軌道に乗らない矢先の出来事に絶句した記憶があります。

クリニックは東武日光線南栗橋駅前にあります。南栗橋は東武の車両工場がある関係で都内発下り線の終着駅となります。有名な特急スペーシアが走る路線で日光鬼怒川への観光路線となっています。東急田園都市線を利用される方は大学周辺地域からの駅で上りの行先に「久喜」や「南栗橋」と表示されているのをご存じでしょうか？昔では考えられませんでした。東急→東京メトロ→東武と各社の乗り入れ開始により、乗り換えなしで田園都市線沿線から到達できる時代になりました（めっちゃくちゃ遠いんですけど!）。

前述いたしました。南栗橋には東武鉄道の車両工場があります（正式には南栗橋車両管区）。広大な土地にいつも鉄道車両が停車しており毎年12月には「東武鉄道ファンフェスタ」が開催されています。2015年は12月6日（日）に開催されました。





懐かしの車両展示や体験コーナー、車両工場内の見学、露店、東武ゆるキャラ登場、ステージショーなど盛りだくさんです。2014年は約1万5000人の人出だったそうです。普段は駅前なのに人っ子一人いないことも珍しくありませんがこの日だけはちびっこや家族連れ、鉄道おたくによって占拠され、南栗橋駅周辺が年に1回（だけ）最もにぎわう日となります。ご興味のある方は是非一度訪れてみてはいかがでしょうか？

第16回四門会ゴルフコンペのご報告

平成27年9月27日(日)、川崎国際ゴルフ場で開催されました。

当日は曇り模様、雨の予報もありましたが無事降られることなくラウンドできました。一番ホールティーショットは聖マリア大学病院へ向けてのティーショットとなりました。総勢18名、初出場2名、医局の先生方も3名の出席申し出があり、(1名病欠)大会が盛り上がりました。旧交を深め、同業者ならではの内輪話などができ楽しく会を終えることができました。

Table 1 結果報告

2打差に過半数の10名が入るといふ壮絶な争いでした。当日はGPS付のカートでスコア入力もでき皆のスコアがオンタイムで確認でき、結果発表までハラハラドキドキでした。

Fig.1 1組目、Fig.2 2組目、Fig.3 3組目、Fig.4 4組目、Fig.5 5組目

第17回は平成28年9月25日(日)の予定です。医局員、OBの先生方多数のご参加お待ちしております。

次回幹事、赤尾(記)、大塚

第16回四門会ゴルフコンペ 川崎国際GC H27.9.27						
		OUT	IN	GROS	HD	NET
優勝	赤尾一郎	43	46	89	16	73
準優勝	渡辺昭司	50	48	98	25	73
3位	上杉恵介	51	51	102	29	73
4位	鈴木正彦	41	45	86	12	74
5位	桑原大輔	44	46	90	16	74
6位	小松崎靖	46	46	92	18	74
7位	越智健太郎	39	44	83	8	75
8位	岩武博也	47	40	87	12	75
9位	鳥越達也	50	49	99	24	75
10位	南定	53	47	100	25	75
11位	田沢卓	48	54	102	26	76
12位	佐久間惇	54	51	105	28	77
13位	菅野澄雄	50	44	94	16	78
14位	宮本康裕	64	55	119	40	79
15位	荻野貞雄	45	47	92	11	81
BB	大塚崇志	67	62	129	36	93
BM	春日井滋	63	72	135	40	95

Table 1 結果報告



Fig.1 1組目
鈴木、佐久間、上杉



Fig.2 2組目
田沢、岩武、菅野



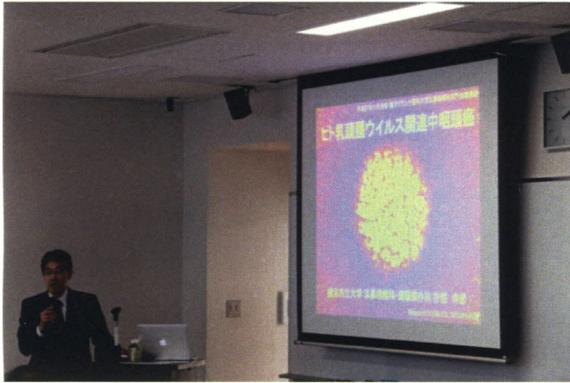
Fig.3 3組目
小松崎、南、荻野、宮本



Fig.4 4組目
春日井、鳥越、越智、桑原

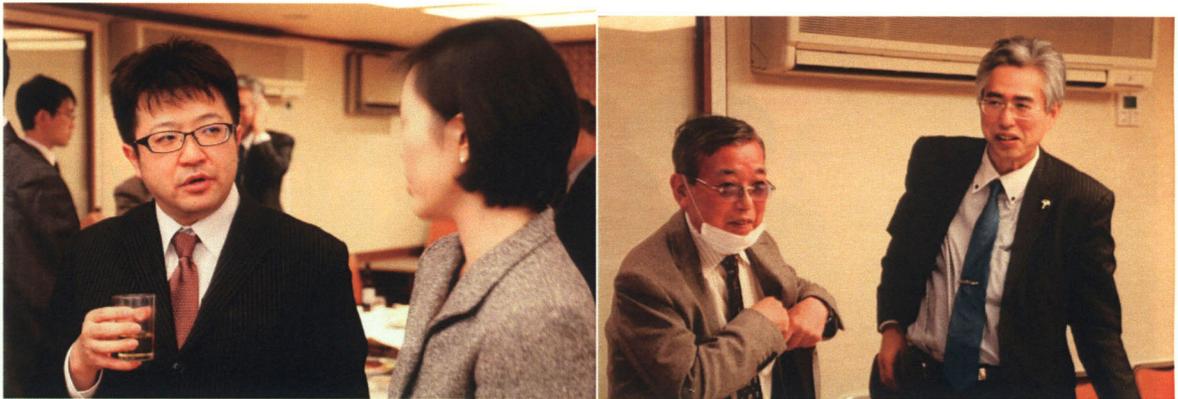


Fig.5 5組目
赤尾、渡辺、大塚









第19回四門会理事会議事録

1. 会員数内訳（平成27年11月29日現在）
総会員数：124名
うち現医局員：20名
2. 会員異動
川上 猛敬 平成27年3月31日 退職
(まちだ耳鼻咽喉科)
3. 新入会員
望月 文博 平成27年4月1日 入職
4. 退会希望
松生 愛彦 平成27年11月29日 承認
5. 会計報告（平成26年10月～平成27年9月）
右記参照
6. 平成27年度役員人事
会 長 岩武博也
副会長 渡来潤次、服部康介
顧 問 竹山 勇、加藤 功、大橋 徹
推薦理事 肥塚 泉
理事 岩澤 寛、芋川英紀、上杉恵介、
越智健太郎、勝見直樹、木下裕継、
黒田寿史、倉田久美、剣持 睦、小松崎 靖、
佐久間 惇、佐々木祐幸、佐藤成樹、
新谷敏晴、スミス馨子、南 定、
宮部 聡、宮本康裕、谷口雄一郎、
渡辺昭司 (50音順)
監事 飯田 順、岡田智幸
事務局長 春日井 滋
・理事は65歳で定年とすることが承認。
・名誉理事は顧問へ名称変更することが承認。
・平成28年度から倉田久美先生とスミス薫子先生の2名
が新しい理事として岩武先生より推薦され承認。
7. 四門会賞
該当者なし
8. 開講45周年記念祝賀会について
日時：平成28年7月2日（土曜日）
場所：ホテルモリノ（新百合ヶ丘）
9. 平成30年度耳鼻咽喉科臨床学会主幹（第80回）
期間：平成30年6月28日～6月30日
場所：パシフィコ横浜
10. 平成28年度四門会日時
日時：平成28年12月4日（日曜日）
場所：京王プラザ（新宿）
11. その他
 - ① 新入医局員対策費について同門会より28年度
は30万円寄付していただくことが承認された。
 - ② 平成28年度日耳鼻総会が名古屋であり、服部先
生が幹事で親睦会を開催予定。

平成26年10月～平成27年9月

平成25年度繰越金	¥4,095,287	
	収入	支出
平成25年度会費	¥970,000	
四門会誌第22号印刷費		¥175,161
秋山・北山日当		¥20,000
通信運搬費		¥20,100
慶弔費		¥29,915
第73回日本めまい平衡学会寄付		¥1,000,000
四門会賞(2名分)		¥100,000
総会会費残金	¥59,276	
振込み手数料		¥216
利息	¥495	
	¥1,029,771	¥1,345,392
次年度への繰越金	3,779,666	

監査報告

平成27年9月30日

聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科学教室
同門会(四門会)
会長 岩武 博也 殿

飯田 順 

監事

岡田 智幸 

聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科学教室 同門会(四門会)平成26年度収支決算に関する証拠書類を慎重に審査しましたところ適正であることを認めます。
また、会務は適切に施行されていることを認めます。

聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科学教室同門会会則

第1章 総 則

第1条（名 称）

本会は、聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科学教室同門会（四門会）と称する。

第2条（事務局）

本会は、事務局を聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科学教室内に置く。

第2章 目的および事業

第3条（目 的）

本会は、聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科学教室の進歩発展と学術事業に対する援助を行うとともに、会員相互の学術研鑽並びに親睦を図ることを目的とする。

第4条（事 業）

本会は、前条の目的を達するために、次の事業を行う。

- （1） 学術研究会および講演会等の開催
- （2） 総会および親睦会の開催
- （3） 四門会誌・名簿・その他出版物の発行
- （4） 聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科学教室の後援
- （5） その他、本会の目的を達成するのに必要な事項

第3章 会 員

第5条（会員）

本会は、次の者をもって会員とする。

- （1） 聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科学教室在籍者
- （2） 聖マリアンナ医科大学関連教育病院耳鼻咽喉科在籍者
- （3） 本会の目的に賛同し会長あるいは理事会において承認された者

第6条（会員の入退会手続）

- （1） 本会に入会を希望するものは、所定の申込書に年会費を添えて本会に提出し、理事会の承認を得なければならない。
- （2） 前条（3）項に該当する者は、会長あるいは理事会の推薦を得た後、所定の申込書に年会費を添えて本会に提出し、総会で承認を得なければならない。
- （3） 本会の退会を希望する者は理事会の承認を得なければならない。

第7条（会 費）

- （1） 会費は細則に定めるところにする。
- （2） 会費は前納とする。

第4章 役員

第8条（役員）

本会は会長1名、副会長2名、理事数名、事務局長1名、監事2名を置く。

第9条（役員の任期）

- （1） 本会の役員の任期は、原則としてその都度議を得るものとする。ただし、再任を妨げない。
- （2） 役員に欠員が生じた場合、補欠役員がその職務を行う。
補欠役員の任期は、前任者の残任期間とする。
- （3） 役員は、その任期満了後でも後任者が就任するまでは、その職務を行う。

第10条（役員の職務、権限）

- （1） 会長は本会の代表し、会務を総括する。
- （2） 副会長は会長に支障が生じた場合、その職務を代行する。
- （3） 理事は理事会を構成し、会則に定めるものの他、本会の業務を議決し、業務を執行する。
- （4） 監事は本会の業務ならびに会計を監査する。
- （5） 事務局長は理事会のもとに事務局を統括し、会務の遂行にあたる。

第11条（役員の選任）

- （1） 理事および監事は会員により推薦され、理事会の議を得て、総会にて承認得たものとする。
選出の方法は細則による。
- （2） 理事の中に推薦理事と名誉理事を置き、聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科学教室代表教授を推薦理事とする。
また、教授退任後は名誉理事とする。
- （3） 会長、副会長は理事の互選とする。
監事は理事および事務局長を兼ねることはできない。

第5章 会議

第12条（総会）

- （1） 総会は年1回会長が理事会の議を経て、これを召集する。
- （2） 総会は会員の3分の1以上の出席（委任状を含む）をもって成立する。
- （3） 総会において会長は議長とし、事業計画ならびに収支予算についての事項、事業報告および収支決算についての事項および本会の運営に関する重要事項の承認を受けなければならない。
- （4） 総会の議決は出席者の過半数をもって決し、可否同数のときは議長が定める。
- （5） 会長が必要と認めた場合、あるいは会員の要望がある場合において、会長は理事会の議を経て、臨時総会を召集することができる。

第13条（理事会）

- （1） 理事会は会長がこれを召集する。
- （2） 理事会は現理事数の3分の2以上の出席（委任状を含む）をもって成立する。
- （3） 理事会において会長は議長となり、本会の事業を企画し、必要な一切の事項を審議し運営する。

- (4) 理事会の議決は出席者の過半数をもって決し、可否同数のときは議長が定める。
- (5) 監事は理事会に出席し意見を述べることはできる。ただし、票決に加わることはできない。

第6章 事務局

第14条 (事務局)

- (1) 本会の一般業務を処理するために、本会の事務局内に事務局を置く。
- (2) 事務局の構成は事務局長1名、事務局員若干名とし、選出方法は、聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科学教室医局に一任する。
- (3) 事務局長は理事会に出席する。

第7章 会計

第15条 (本会の経費)

本会の経費は会費、寄付金、その他の収入をもってあてる。

第16条 (会計年度)

本会の会計年度は毎年10月1日に始まり翌年9月30日に終える。

第8章 会則の改正

第17条 (会則の改正)

本会則を改正するには理事会の審議を経て、総会の出席者の3分の2以上の議決を得なければ変更することができない。

第9章 その他

第18条 (その他)

本会則を施行するに必要な細則を別に定める。

<附則>

第19条 (本会則の発効)

本会則は平成9年12月1日から発効する。

本会則は平成12年12月3日から発効する。

本会則は平成16年11月28日から発効する。

本会則は平成18年12月3日から発効する。

本会則は平成24年12月2日から発効する。

聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科学教室同門会細則

第1条 本細則は会則第18条によりこれを定める。

第2条 (会費)

- (1) 会費は年会費とし、次のごとく定める。
- ・ 聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科学教室および同関連教育病院現医局員の会員は年額 5,000 円
 - ・ その他の会員は年額 10,000 円
- (2) 70 歳以上の会員に対しては理事会の議を経て、会費及び同門会参加費の免除を行い、名誉会員とする。

第3条 (役員を選出)

- (1) 役員の定数は、理事 15 名以上、監事 2 名とする
- (2) 選出方法は理事会に一任する。
- (3) 会長および副会長の選任は理事の互選による。
- (4) 聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科学教室代表教授は会長を兼任できない。
- (5) 会長は聖マリアンナ医科大学卒業生に限る。
- (6) 会長、副会長の任期は3年2期までとする、ただし再任は防げない。
- (7) 役員は65歳で定年とする。

第4条 (慶弔)

会員にかかる慶弔は理事会に一任する。

<附則>

第5条 (本細則の発効)

本細則は平成9年12月1日から発効する。

本細則は平成11年11月28日から発効する。

本細則は平成12年12月3日から発効する。

本細則は平成16年11月28日から発効する。

本細則は平成17年12月4日から発効する。

本細則は平成22年12月5日から発効する。

《編集後記》

四門会誌第23号をお送りいたします。今号は、中島博昭先生の追悼文や写真を載せさせていただきます。ご寄稿いただいた諸先生方に御礼申し上げますとともに、中島博昭先生のご冥福をお祈りする次第です。

さて、教室は来年度6人の新入局者を迎えることが出来ました。HPを作成し耳鼻科をアピールしたり、研修医や学生の臨床実習を丁寧に指導することなどの取り組みの成果が少しずつ出てきていると思われまます。今後も継続して医局員が増えるよう医局全体で努力していきます。これからも、医局の発展のため四門会の先生方には、益々のご協力、またご指導・ご鞭撻のほどよろしくお祈りいたします。

皆様のご健康と益々のご発展を祈念しております。

(春日井 滋)

